

筑波技術大学卒業生アスリート「スポーツとキャリア発達」

2019年1月27日（日）

中澤隆氏（保健科学部8期生） トライアスロン

皆さんこんにちは。中澤隆です。よろしくお願いします。自分はパラトライアスロンをしています。2013年に本校入学して2017年3月に卒業しました。現在39歳です。ちょっと自己紹介をしたいと思います。

高校を卒業してからは電気工事の現場監督で勤めていました。27歳の頃に緑内障という病気になり、障害を理由に事実上解雇になりました。今見えてるのは左目がシスウテン、右目は0.02で95%視野欠損です。視覚障害者になった31歳の頃にテレビで全盲の女の子がトライアスロンに挑戦しているのを見て感動して、自分もできるかなと思いトライアスロンを始めました。

自分はトライアスロンをするようになって変わったことがあります。それは人に良い影響を与えられる人間になりたいと思ったことです。障害を持っている自分がトライアスロンで活躍して人の心を少しでも動かせたらと思っています。パラトライアスロンをして少しでも感じたこと、思ったこと、言葉が少しでも心に残って困難を乗り越える力になればと思っています。ここ最近1、2年くらいから小学校を中心に講演活動もするようになりました。

そしてもう一つの変化は自分の目標をしっかり定めて、長期スパンから短期スパンまで考えて今この瞬間何をすべきなのかで考えて行動するようになりました。

パラトライアスロンの活動をしていく中でいろいろと苦労がありました。

一つはまず資金面のこと。トライアスロンというのはやっぱりお金がかかるスポーツで趣味でやってる人たちは企業の社長さんやお医者さんなど比較的裕福な人が多いです。自分のように視覚障害者も国内外の大会に出場するために遠征費、ガイドの分の旅費もかかりまですし、タンデムバイクという二人乗りの特殊バイクも高額です。最初はインターネットで寄付を募っていましたが、海外遠征に行くほどの金額には届きませんでした。それで働いていた頃の貯金を切り崩して活動していました。その後大学2年生の時に会社を経営している親戚がスポンサーになってくれて、今ではより多くの国内外の大会に出場するようになりました。本当にありがたいです。

次の苦労が視覚障害者スポーツにはつきもののガイドの話です。多くの障害者アスリート

同様、自分もガイドが不可欠です。ガイドは自分よりトライアスロン技術が高くスピードも早い同性の選手じゃなければならないです。自分が所属しているチームのコーチがボランティアとしてガイドをしてくれています。4人ほどガイドをしてくれる人がいるんですけど、合宿や遠征の日程の都合の合う方にガイドをお願いしています。誰も都合がつかない場合、合宿や大会に行けないのでこまめに連絡するように、早めにガイドをお願いするようにしています。自分は少しは見える全盲ではないので、ある程度は一人で練習できます。しかし実践と同様にガイドと一緒に練習する時間は試合で勝つために欠かせないですし、とても貴重です。ガイドがいないとできないスポーツなので、ガイドやサポートしてくれる人のありがたみを感じます。周囲の協力、支援あって自分なんだなとつくづく思います。

次は就職のことです。学生さんの皆さんが一番気になるところじゃないかなと思います。自分は大学2年の時にアスリートとして就職したいと思いインターネットでいろいろ検索して、つなひろワールドという障害者アスリートに特化した人材派遣会社を見つけてアスリート雇用には1週間全部練習、2、3日会社で勤務し残りは練習、5日間会社に勤務して残りが練習っていう3タイプがあります。自分は1週間毎日練習したいと思ったのでそういう希望を伝えてエントリーしました。当時自分はトライアスロンの視覚障害者カテゴリーでは8位に入っていましたが、よほどの人気スポーツや人気選手がない中、需要がない中、最初の1年半くらいは書類選考で落とされ続けました。4年生の夏頃にやっと2社面接まで進み、最終的には1社採用されて、現在サイネオス・ヘルス合同会社で1年更新の契約社員としてアスリート雇用されています。更新されるのは4年間までなので、これまで現在の会社で正社員として採用されるのを希望していますが、現状は難しいようです。パラアスリートに限らず障害者の9割が契約社員だというデータもあります。パラアスリートだと現役で活躍できる年齢が限られているからなおさらです。契約社員である自分はいつ職を失うか分からない、すごい不安は常にあります。サラリーマンをしていた頃のように安定した雇用ではありません。しかし、アスリートとして生きている喜びには代えられません。自分はパラトライアスロンでトップになりたい。パラリンピックで金メダルを取りたいという熱い気持ちがあります。サラリーマンの時にはなかった魂の喜ぶような生き方をしている実感があります。正社員になれず4年間の更新期間が終わったらまたアスリート雇用こだわって就職活動をしていきたいと思っています。

ここまで資金面、ガイド探し、就職のお話をさせていただきましたが、自分が一番学生時代に苦労したのが学業とスポーツの両立です。

パラトライアスロンというのは水路750メートル、バイクが20キロ、ランが5キロを続けて行い、その合計タイムで争う競技です。自分はパラトライアスロンを始めた頃は25メートルも泳げず、1キロ走ると膝が痛くなるような状況でした。運動は決して得意ではなく、

小柄で体格的にも恵まれてないものを努力でカバーしてきました。学生の頃は朝5時半に起きて、6時半ころから8時まで筑波大学のトライアスロン部と一緒にスイムの練習をしていました。授業のない空き時間を練習に充てていました。土日は青山トライアスロンクラブに筑波からお台場まで電車で通い、春夏冬の長期休みは国内ではトップスクールのチームケنزのある西東京の田無の近くでビジネスホテルに泊まり、朝6時から練習していました。勉強はへとへとになった身体で眠気と戦いながら夜やっていました。もともと勉強ができるほうではなかったのですが、練習中心の生活を送っていたので赤点や追試ばかりでした。それでもやっぱりせっかく入った大学なのでなんとか卒業したい、国家資格を取りたいと思い、トライアスロンシーズンがオフになった4年生の夏以降は練習をせずに勉強中心の生活にシフトチェンジして猛勉強しました、必死の練習成果が出てアジア選手権で優勝、そして横浜で開催された世界選手権で優勝することができました。努力したかいがあり、卒業試験もなんとかとおおり、あん摩マッサージ指圧師の国家資格にも合格しました。学業とスポーツを両立するのは不器用な自分にとってすごい大変でしたが充実した学生生活でした。

自分は学業とスポーツを両立して気付いたのは、自分の目標をしっかりと定めて行動することの大切さです。目標を達成するために長期と短期のスパン、両方考えて、きょう今この瞬間何をするのがベストか考えて行動したからこそ優勝であり、卒業であり、国家資格の合格だったと思います。

今の短期の目標は東京2020のパラリンピックに出場して金メダルを取ることです。そのために今できる努力をし日々の練習に励んでいます。長期の目標としては、東京2020の4年後のパラリンピック、さらにまた4年後のパラリンピックに出場することです。

そして自分の人生をかけた一生涯の目標は、トライアスロンに挑戦した全盲の少女が人生のどん底だと思っていた自分の人生を変えてくれたように、誰かの人生を良い方向に変化させる力になる、困難を乗り越える力になりたいということです。小中学校向けの講演で自分が必ず言ってる言葉があります。それはピンチはチャンス、苦手から逃げない、できないのではなく伸びしろ、一歩踏み出すと何かが起こる。スポーツを通じて学んだことをこれからも伝えたいですし、自分にも生かせたいと思います。ありがとうございます。